令和8年度 林業労働災害防止強調運動

期間:11月1日～11月30日

林業労働災害防止強調運動の目的等

○県内の林業の死傷災害の現状

・毎年死亡災害が発生
・最も多い年では５名の死亡災害が発生
・令和元年から７年までの間に21件の死亡災害が発生
・令和７年は死亡災害全国ワースト３位
・令和７年は死傷災害全国ワースト２位

○課題

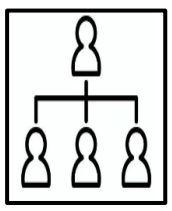
・基本動作が守られていないことにより発生する災害が多い
・同様の災害が繰り返し発生している
・林業従事者の高年齢化
・未熟練者への対応

○目的

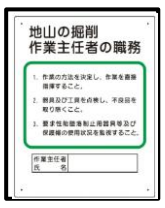
関係行政機関及び林業関係団体の連携の下、伐木作業等が本格化する11月の時期に、重点事項について集中的に実施し、林業における労働災害防止対策の徹底を図る
⇒安全対策を定着させる
⇒死亡災害撲滅及び労働災害の大幅な減少を図る

強調運動期間中に実施すべき取組み事項

（1）林業店社における実施事項


□安全衛生管理体制の整備


□雇い入れ教育等の徹底



□有資格者の適正配置


□安全パトロール等の実施


□安全意識の高揚

（2）林業現場における実施事項

○ 共通事項



□基本ルールの遵守

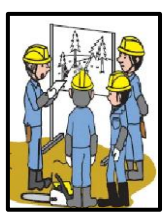

□服装の点検、保護具使用徹底



□作業内容を明示した日報の作成

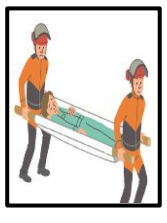


□作業計画の作成、計画に基づいた作業


□作業前ミーティングの実施

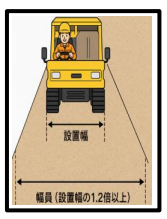

□一斉点検RAの実施


□ベテランと若手の組合せ作業

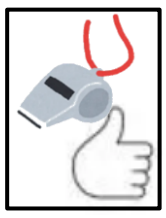

□緊急連絡体の点検 救護訓練

『安全宣言』
重機での
シートベルト
着用徹底！！
□安全現場宣言運動の実施

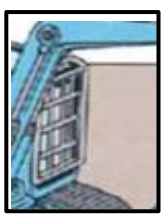
○ 車両系木材伐出機械作業



□走行路の幅員確保


□明確な合図の実施


□シートベルトの着用徹底


□ヘッドガード、防護柵の設置


□特別教育受講の徹底

○ 伐木造材作業

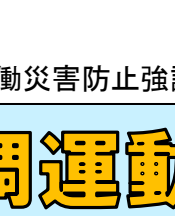

□指差し呼称による安全確認

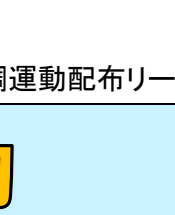


□安全な伐倒方向の決定

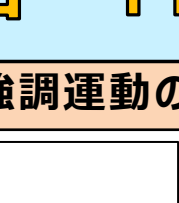


□適切な受け口、追い口の徹底

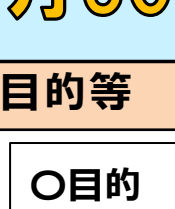

□くさびの使用徹底

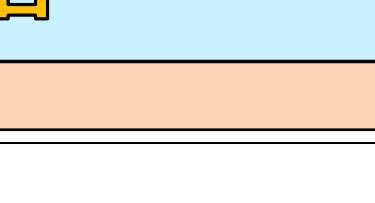


□適切な退避場所の選定



□伐倒時の合図及び退避の徹底

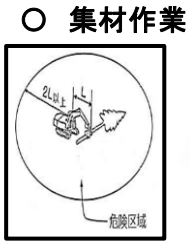

□チェーンソーの適正使用


□保護衣及び足指防護用作業靴の着用



□急傾斜地等の墜落・転落防止対策の徹底

○ 集材作業



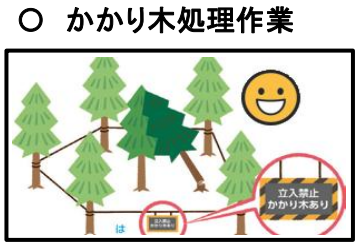
□危険箇所立入禁止


□合図及び退避の徹底



□専用器具の使用徹底

○ かかり木処理作業



□危険区域の表示及び立入禁止

○ トラック荷台（積荷）からの墜落・転落の防止



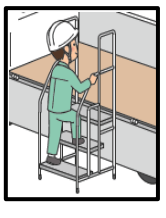
□墜落時保護用の保護帽着用



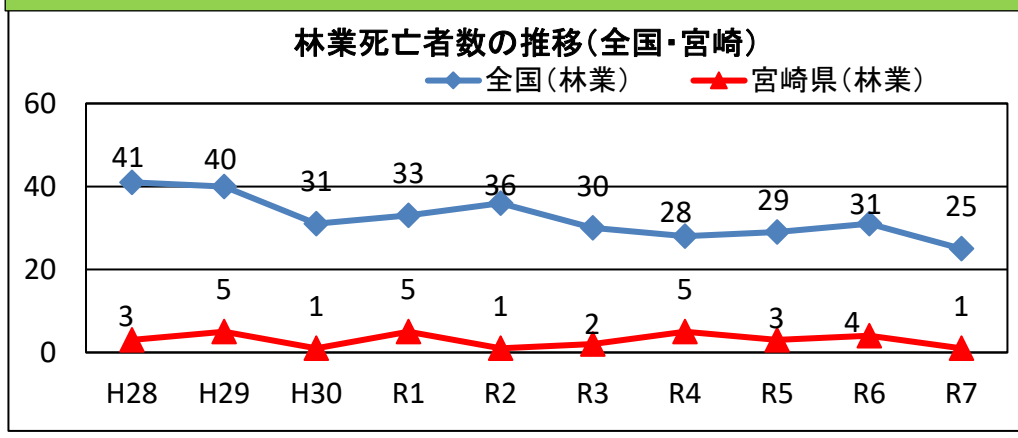
□耐滑性のある靴の使用


□安全な作業姿勢の徹底


□荷締め等は原則地上で行う


□昇降設備の使用

過去10年間（H28年～R7年）の林業死亡労働災害件数 令和７年は平成30年ぶりに全国・県内ともに減少



宮崎県の林業は令和７年の統計で 死亡者数全国ワースト３位、死傷者数全国ワースト２位

	死亡者数	死傷者数
ワースト1	北海道（5）	北海道（69）
ワースト2	大分 （3）	宮崎、高知（62）
ワースト3	宮崎ほか16県（1）	岐阜、大分、鹿児島（46）
ワースト4	―	岩手、福島（41）
ワースト5	―	静岡（39）

資料：労働者死傷病報告書　　※（　）内は人数

宮崎労働局　0985-38-8835
宮崎労働基準監督署　0985-44-2914
都城労働基準監督署　0986-23-0192
延岡労働基準監督署　0982-34-3331
日南労働基準監督署　0987-23-5277

宮 崎 労 働 局

県内の林業における死亡災害事例（令和７年）

重機ごと路肩から墜落、運転者は途中で投げ出される



〇概要（事業主死亡の災害）

・令和７年７月発生　・経験：不明　・事故の型：墜落・転落

作業道を建設中、被災者が運転していたバックホウが路肩から約50m下まで墜落。バックホウのキャタピラの幅は約2.5m、幅員は約2.7mであった。

〇原因

・作業計画を作成していなかったこと
・幅員が確保されていなかったこと
・路肩の表示を行っていなかったこと
・シートベルト未着用の可能性があったこと

〇再発防止対策

✅作業計画の作成と計画に基づいた作業の実施
✅幅員は設置幅の1.2倍以上とする
✅路肩の表示をする
✅シートベルトの着用を徹底する



同僚が伐倒した木に激突され



〇概要

・令和７年９月発生　・経験15年　・事故の型：激突され

被災者と同僚は同時に伐倒作業をしていた。同僚が伐倒した木が、伐倒予定方向より約40度ずれ、被災者に激突した。



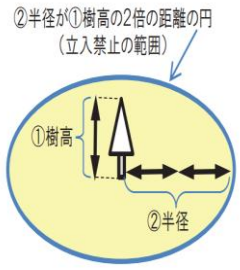
⇐実際の伐根
つるがまったく
残っていない

〇原因

・つるが作成できていなかったこと
・くさびを使用していなかったこと
・上記により伐倒予定方向がずれたこと
・樹高２倍以上の離れた場所で作業していなかったこと

〇再発防止対策

✅適切な受け口、追い口の作成の徹底
✅くさびの使用徹底
✅樹高の２倍以上離れた場所で作業する
✅伐倒前の合図の徹底



フェラバンチャで材つかみ、チェーンソーで玉切ったところ、跳ねた材に激突される



〇概要（事業主死亡の災害）

・令和７年８月発生　・経験20年　・事故の型：激突され

フェラバンチャで材を掴み、その材をチェーンソーで玉切りをしていた。切った材の先端が跳ねて、被災者に激突した。被災者は材とフェラバンチャとの間に挟まれた。被災者は一人作業であった。

〇原因

・材が安定しない場所で玉切り作業を行ったこと
・玉切った材が転げた際に退避する場所を確保していなかったこと
・一人作業を行ったことで救急要請が遅れたこと

〇再発防止対策

✅材が安定する場所で玉切りをする
✅玉切った材が自分に転げない位置で作業をする
✅一人作業を行わない

〇県内の労働者の死亡災害の特徴

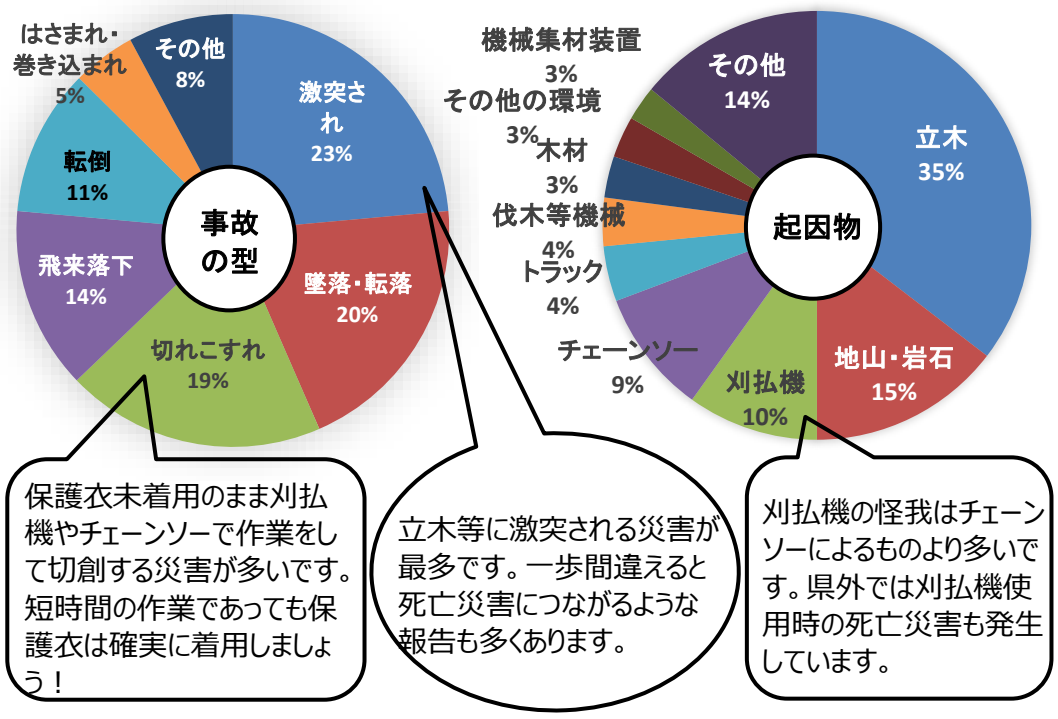
令和元年から令和７年までの林業における労働者の死亡災害について、

・事故の型でみると、13件が「激突され」、８件が「墜落・転落」
・「激突され」災害13件のうち、12件の起因物は立木
　伐倒予定方向に倒れず自身に伐倒木が倒れてきた、
　付近にいた労働者に当たったというもの
・「墜落・転落」災害８件のうち、６件は重機が路肩から墜落したというもの

〇死亡災害の主な原因

・立木に激突された災害の伐根を見ると「つるが無い」または「つるの状態が不十分」
⇒適切な受け口、追い口作成の徹底、くさび使用の徹底
・重機の墜落・転落災害については、路肩が分かりにくい、幅員が狭い
⇒路肩の表示、幅員を1.2倍以上とする
　重篤化を防止するためROPS構造の重機を用いる。
　保護帽、シートベルトを確実に着用する
　結論：基本動作の徹底が重要！！

県内の林業における死傷災害（休業４日以上）の発生状況【Ｒ５年～Ｒ７年】 196件



保護衣未着用のまま刈払機やチェーンソーで作業をして切創する災害が多いです。短時間の作業であっても保護衣は確実に着用しましょう！

立木等に激突される災害が最多です。一歩間違えると死亡災害につながるような報告も多くあります。

刈払機の怪我はチェーンソーによるものより多いです。県外では刈払機使用時の死亡災害も発生しています。



※１イラスト：林業・木材製造業労働災害防止協会HP「労働安全衛生対策」より引用

宮崎労働局

宮 崎 労 働 局

宮 崎 労 働 局